

# 自己論の観点から見る対話的な学びと 個性的なライフの構築

溝上 慎一\*

## Learning through Dialogue and Constructing Personal Lives from the Perspective of Self Theories

Shinichi MIZOKAMI\*

In this article, learning and other different activities in school education were explained from the perspective of self theories. The self-other relationship is the basis of self theories. It was explained from different angles: the structures of daily conversation, the etymology of the self, and the mechanism of early childhood in human development. For school education, self theories suggested that learning requires the self-other relationship: practically learning through dialogue. Last, constructing personal lives was also explained through the multiple self and the dialogical self. As the extent of modernity in society progressed drastically, people's individualization and individuation were also developing. These social changes created career education in school curricula, which changed students' learning: it was not only for acquiring knowledge and skills but also for forming their selves for the future.

キーワード：自己，他者，対話的な学び，多元的自己，対話的自己

### 1. はじめに

自己論の基本的視座は他者との関係にあるといわれるほど、自己は他者と切っても切り離せない関係にある。他者を基礎にすれば必ず自己が成長するとは限らないが、自己を成長させなければ他者を求めることが基本である。これらは、人の成長・発達の公理とも呼べるものである。

他者を理解するフレーム（眼差し）を発達させ、その他者フレームで自身を捉えるという自己のメカニズムは、教育実践的にはとても重要なメカニズムを示唆している。というのも、主体的な学びやリフレクション（振り返り）、探究的な学習など、近年実践が求められる自己主導型の学習（self-directed learning）が、他者との関係性を源泉とするといえるからである。言い換えれば、他者との関係性が弱い生徒は自己主導

型の学習が弱い。自己主導型で学習がなされているように見える場合でも、それが成長に繋がりにくい、といえることにもなる。他者の力を借りることなく、他者のフレームなしに、己の世界だけで埋没的に学習を律したり主導したりすることは難しい。これこそが自己と他者の観点が示唆するポイントである。

教育実践的には、自己と他者の観点を作り出すのは対話的な学びである。他者を介して自己を学びの中で育てる。そのことは、主体的な学びを育てることにもなる。本稿では、以上のことを解説していく。最後には、最新の動向として、近代社会における個人化が徹底的に進み、自己論としては多元的自己と対話的自己が合流していること、そしてそのことを踏まえて現代の学校教育の多くの活動が個性的なライフの構築に資する自己形成の活動になっていると論じる。

なお、本稿では中学生・高校生あたりを念頭に置いて

\* 桐蔭横浜大学 (Toin University of Yokohama)